



マラリアについて

マラリア原虫を持つハマダラカに刺されて感染します。マラリア原虫には熱帯熱マラリア原虫（これが最も危険）、三日熱マラリア原虫、四日熱マラリア原虫、卵形マラリア原虫の4種類があり、予防薬や治療が異なる場合があります。発病までの潜伏期間は、熱帯熱マラリアが9～14日、三日熱マラリアが12～17日、四日熱マラリアが18～40日、卵形マラリアでは16～18日くらいが平均です。

症状としては、悪寒、震えとともに体温が上昇し、4～5時間続いた後、解熱する。この熱発発作を繰り返すのがマラリアの特徴で、三日熱・卵形マラリアが48時間ごと、四日熱マラリアは72時間ごと、熱帯熱は24～48時間ごとの間隔で発熱します。

特に熱帯熱マラリアでは治療が遅れると、貧血、腎不全、脳マラリア等を引き起こし、死亡する件があります。

流行状況は？

東南アジア、アフリカ、中南米等。海拔1500m以下の農山村、ジャングル、湿地帯で感染の機会が高い。年間感染者数は世界中で3～5億人、感染症の中で最も患者が多い疾患です。

予防方法は？

蚊に刺されないことが最も重要です。なるべく肌を露出しないこと、忌避剤（DEET という成分を20%前後含むローションなど）を肌に塗る。蚊取り線香や蚊帳で防ぐなどです。ワクチンはありませんが、抗マラリア薬であるメフロキンとマラロンが予防投薬として使用できます。メフロキンの場合、流行地への出発1週間前から内服をはじめ、滞在中そして帰国後4週間にかけて毎週1錠を、マラロンの場合、流行地への出発1～2日前から内服をはじめ、滞在中そして帰国後1週間にかけて毎日1錠を、内服して発病を予防します。

